

北広島町 四季物語



広島県 北広島町農山村体験推進協議会

〒731-1533 広島県山県郡北広島町有田1122

TEL050-5812-8080 FAX0826-72-5242

(事務局：北広島町役場商工観光課)

北広島町へのアクセス

広島駅から北広島町まで50分。広島への修学旅行では
 欠かせない宮島・平和記念公園にも好アクセス！



鉄道

北広島町役場

広島道
中国道



50分

広島駅

岡山駅
45分

新神戸駅
85分

新大阪駅
95分

京都駅

110分

金沢駅

250分

バス

北広島町役場

千代田IC



山陽道

中国道

七塚原SA

48km 44分

小谷SA

80km 60分

岡山IC

168km 120分

吹田IC

335km 230分

神戸三田IC

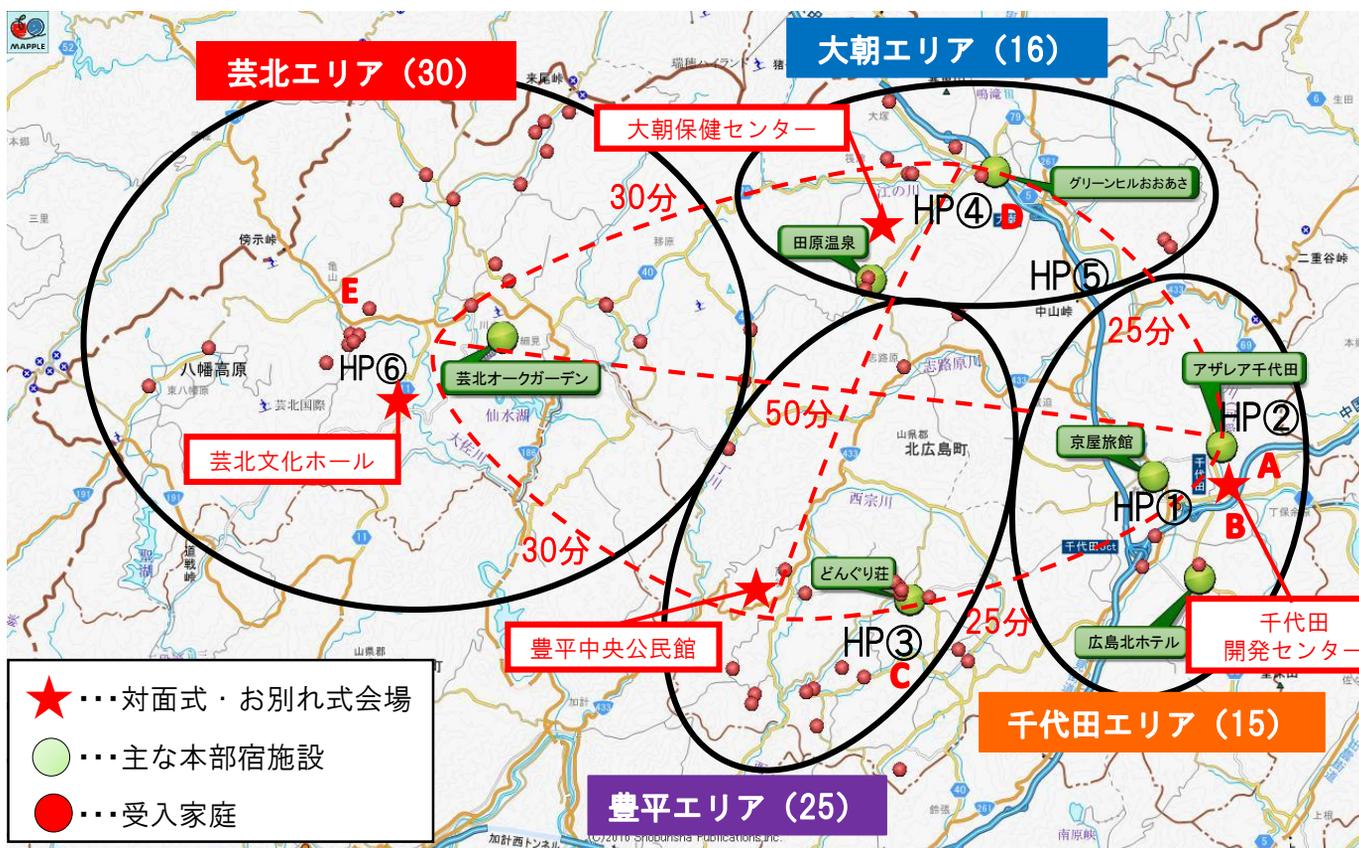
293km 200分

京都南IC

356km 245分

町内の民泊分布

民泊家庭登録件数は86軒。4地域それぞれに本部宿や、入離村式会場、病院、ヘリポートあり。



◆ヘリポート	
HP①	千代田町民ランド
HP②	千代田運動公園
HP③	豊平中学校グラウンド
HP④	大朝コミュニティランド
HP⑤	新庄学園グラウンド
HP⑥	芸北運動公園
HP⑦	芸北中・芸北分校グラウンド

◆病院	
A	北広島病院
B	千代田中央病院
C	豊平病院
D	大朝ふるさと病院
E	雄鹿原診療所
安芸太田町	安芸太田病院
広島市	可部夜間急病センター

◆緊急時避難場所	
エリア	場所数
芸北	34
大朝	24
千代田	27
豊平	20
合計	105

●民泊家庭の分布

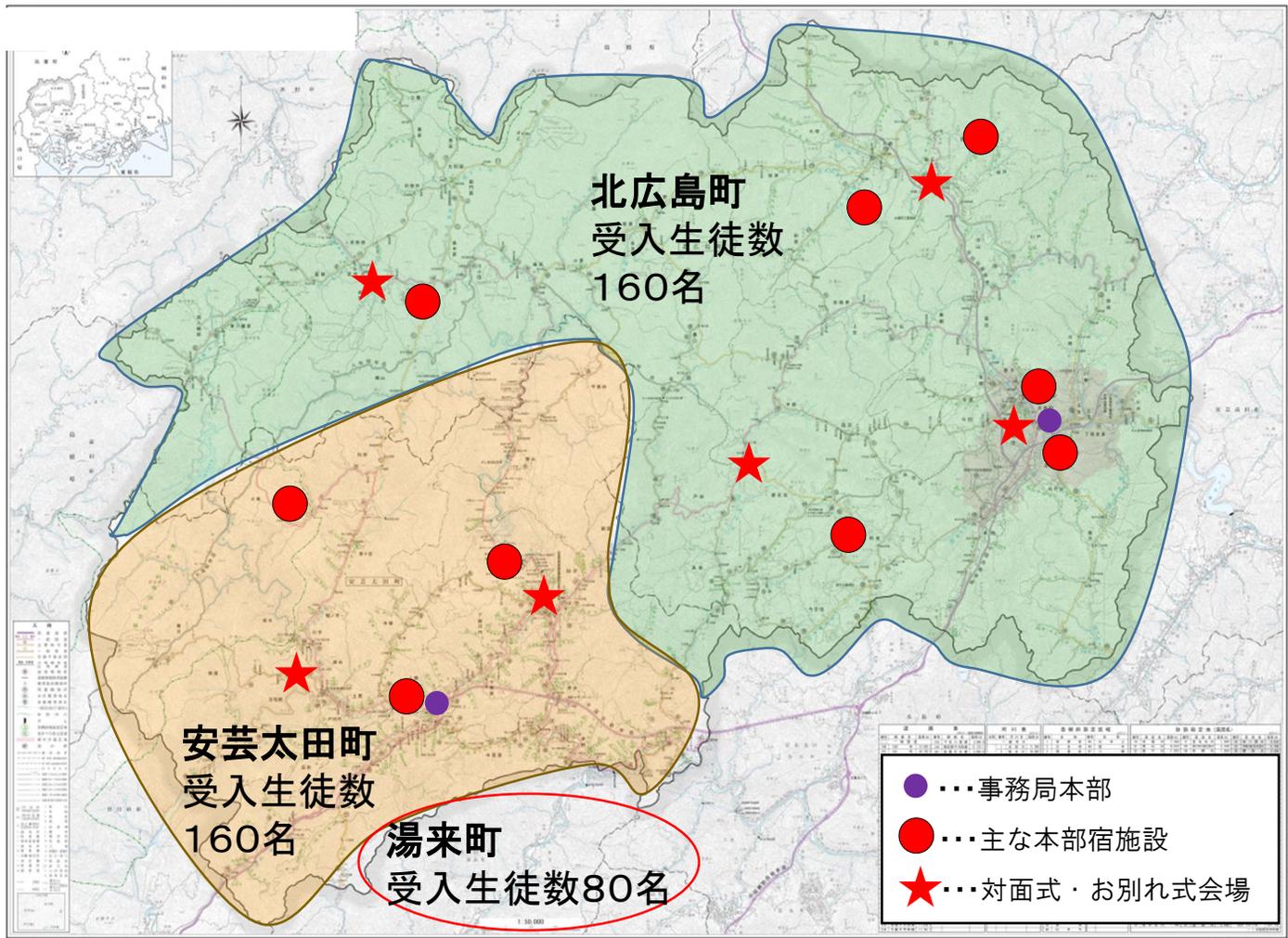
旧町単位で4つのエリアに分布。()の数字は登録家庭軒数。
本部宿泊施設もエリア毎に分布し、エリア内への家庭までは20分圏内です。

●対面式・お別れ式会場

基本的に役場本庁・支所隣接の施設を使用します。原則120名/1会場です。
対面式は18:00まで、お別れ式は8:30からの時間でご設定をお願いします。

共同受入時の民泊分布

北広島町・安芸太田町・広島市佐伯区湯来町の3地域共同受入で
最大400名の受け入れが可能



3町合同受入で大型校に対応可能

近隣3町合同受入で最大400人（10クラス）まで受け入れることが可能です。

事前の準備等のやり取りは、代表の1町が行うため、事務手続きも単独市町での受入とかわりません。

受入市町名

受入生徒数

北広島町

160名(4クラス)

安芸太田町

160名(4クラス)

湯来町

80名(2クラス)

なぜ今、北広島町なのか

①広島を代表する農村文化・神楽のエネルギーを体験することができます。



北広島町で盛んな神楽は、元々秋の収穫を祝い秋祭りの際に神様に奉納する神事でしたが、その娯楽性の高さから人気が高く、今では広島県の観光コンテンツとして広島市の中心部で毎週開催されるほどの評価を得ています。

神楽どころ北広島では、実際に神楽を体験し、神楽を支えている地元住民から直接話を聞くことができます。過疎地で暮らす人間がどのような思いで神楽を守り、伝え、発展させてきたかを直接知る機会にはありません。

➡ 伝統芸能神楽体験・伝統見つけ直しプログラム

②被爆者の生の声を聴くことができるタイムリミットが迫っています。北広島町では、クラスごと個別の被爆体験講話をおこなえます。



広島に原爆が投下された日から70年以上経ち、被爆者のみなさんも高齢化が進んでいます。

被爆者の生の声が聴けるのは今だけです。北広島町では、地元に住む被爆者と協力して、被爆者と生徒との距離を近くして対話ができる被爆体験講話を実施しています。

生徒数に応じた講師と会場をご用意しますので、身近に講師を感じて体験を聞くことができます。

➡ 被爆体験講話

③宮島にお米を納めていた米どころ北広島町で、農業体験ができ、地元で収穫された米の美味しさを味わえます。



かつて宮島の荘園だった北広島町は、今も農業が盛んな地域です。

春にはユネスコ無形文化遺産に登録されている『壬生の花田植』に代表される田植えのお祭り田楽を各地で開催し、秋には収穫を祝う奉納神楽が集落ごとに行われ、住民の生活と米作りが一体となっています。

農作業体験で一次産業の実態を学ぶことができ、また農家民泊では農業体験ができ、農家の生活を知ることができます。

➡ 農作業体験・家業体験

伝統芸能 神楽体験

約70団体の神楽団を有する「広島神楽」の本場！
地域の方によって大切に伝承され、進化する伝統芸能を体験



●概要

「広島神楽」とは、石見神楽を源流に汲み、独自の進化を遂げた神楽で、山間部を中心に盛んに行われています。特に北広島町は、神楽団の数が多く、その数は日本一とも言われます。記紀や能などを基にし、勧善懲悪のストーリー性に富んだ演目は見ごたえのある昔ながらの農村娯楽です。町内の高校の神楽部をはじめとする子ども神楽や、女性神楽団体などもあり、町をあげて伝承している伝統芸能です。衣装は豪華絢爛な金襴刺繍が施され90万円～400万円と高価で、重量も10kg超あります。



●期待される教育効果

普段地元の人しか入ることのできない神社で、神楽団の方のお話（演目説明や、神楽を舞う意味、普段の練習のことなど）を聞いた後、間近に神楽を鑑賞します。長い年月を経て、日々の中で様々な形で伝わってきた**伝統芸能の良さに気づき、異文化に対する理解**を育み、**地域を支える人々の思いや願いを知る**ことが期待できます。また、自分たちの地域の伝統文化についても比較し、考えるきっかけになります。

神楽体験の流れ(90分)

19:15 民泊家庭の車で神社・集会所に集合

19:30 開始式・神楽団団長の話

19:45 神楽鑑賞(1演目30～40分)

20:15 神楽衣装試着・記念撮影

20:30 質問タイム・終了式

20:45 民泊家庭の車で帰宅

●体験最大人数

160名(40名×4会場)

●時期

通年

※12月～3月は開催できる地域に限られます。
※土曜・平日は夜の体験です。日曜は応相談。
※演目指定は相談に応じます。

被爆体験講話

町内在住の被爆者の方による被爆体験講話
クラスごとに車座になったの聴講が可能

●概要

北広島町は広島市に隣接しており、町内に約700名の被爆者の方が在住されています。
このプログラムでは、平和祈念公園等で行われる大人数での講話とは異なり、公民館や、役場施設を使いクラスごとに部屋を分かれて被爆者の方と非常に近い距離で車座になり聴講していただけます。
講話後には質疑応答の時間も設け、より身近に原爆の悲惨さを学習することができます。



事前・事後学習用の教材として北広島町被爆体験講話DVDをお渡しできます。

●期待される教育効果

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度の育成が期待されます。

被爆者の方と非常に近い距離で聴講し、自由に質問できる時間も設けることで、より主体的に平和学習に取り組み、現在世界中で起きている戦争や現在の日本の平和について考えるきっかけになります。

また、前後での原爆資料館の見学などで、より一層平和学習が深まります。

被爆体験講話の流れ(1時間)

14:00	各クラスで講師紹介・開始式
14:10	講話
14:50	質疑応答
15:00	記念撮影・終了式
15:10	(対面式)
15:45	(各受入家庭へ)

●体験最大人数

240名 (40名/1部屋)

●時期

通年

被爆体験講師紹介



箕牧 智之さん

住所：北広島町吉木

生年月日：昭和17年3月15日（76歳）

原爆投下当時：東京大空襲を受けて、昭和20年5月に父の故郷である広島に疎開。8月6日は安佐郡飯室村（現・広島市安佐北区飯室）の自宅で遊んでいた。父は広島駅に勤めており駅の地下で被爆。日本被団協全国理事、広島県被団協副理事長、北広島町原爆被害者の会会長。



山崎 勸さん

住所：北広島町荒神原

生年月日：昭和10年6月20日（83歳）

原爆投下当時：本川小学校（原爆ドーム西）に通学していたが、昭和18年に母親と兄弟3人で父の実家である北広島町（旧芸北町）に疎開した。原爆投下後の8月8日か9日に広島市内に入り、被爆した。現在、地元の学校で被爆体験を伝えている。



三浦 千代子さん

住所：北広島町宮迫

生年月日：昭和6年9月28日（87歳）



藤本 美恵子さん

住所：北広島町大朝

生年月日：大正14年11月10日（93歳）



金子 孝子さん

住所：北広島町大朝

生年月日：昭和5年1月5日（88歳）



岩田 雪美さん

住所：北広島町西八幡原

生年月日：昭和5年12月13日（87歳）



石川 富士雄さん

住所：北広島町大朝

生年月日：昭和4年9月1日（89歳）



村竹 久司さん

住所：北広島町溝口

生年月日：昭和6年4月3日（87歳）

◆町内在住被爆者数 572名

◆修学旅行生への講話経験がある方 8名

農作業体験

厳島神社を支えた荘園の地・ユネスコ無形文化遺産「壬生の花田植」の町で、米作りなどの農作業を体験。



●概要

北広島町はかつて厳島神社社領で、昔から米作りに適した土地でした。米作りを中心とした農耕文化も栄え、収穫祭である神楽の奉納や、春の安全・豊作祈願祭であるユネスコ無形文化遺産「壬生の花田植」をはじめとする田楽などが今も大切に伝承されています。

米作の他にもトマト・キャベツ・ほうれん草などの高原野菜に関する農産物も生産が盛んで、広島市民120万人の胃袋を支える地域です。



●期待される教育効果

地元で農業に携わる指導者のもと、春には田植え、秋には稲刈りなど毎日食べる米作りを体験することで、生産から消費までの工程を総合的に理解するとともに、**勤労の尊さや生産の喜びを体得**することが期待されます。また、農業分野の就業体験にもなり、指導者の話を聞くことで、**職業観の形成や進路の選択**決定などに資する体験を得ることもできます。食育教育の観点からも、**食への関心**を深め、食の大切さに気づき、自らの力で望ましい食行動がとれるようになります。

農作業体験の流れ(2時間)

9:00	開始式・指導者紹介・作業手順説明
9:30	班ごとに田植え・稲刈り作業開始
10:30	適宜休憩など
11:30	作業終了
12:00	昼食(地元米のおにぎり・味噌汁など)
13:00	終了式

●体験最大人数

200名(100名/1会場)

●時期

田植え 4月25日頃～5月15日頃

稲刈り 8月25日頃～10月10日頃

八幡湿原トレッキング

西日本最大級の湿原、八幡湿原をトレッキングしながら
生物多様性や、自然との共生、環境保護について学ぶ。

●概要

北広島町の大自然を最も象徴しているのが「八幡湿原」。大小20ある湿原の総称で、面積比で西日本最大規模を誇ります。

この八幡地区がかつて湖底にあった名残でもあり、湿原の南限です。冬は2m近く雪が積もる豪雪地帯。春～秋は過ごしやすい高原です。

「西の尾瀬」と呼ばれますが、湿原としてその植生は相違点があります。（植物相共通係数18%）かつて牧草地となり、失われかけた湿原で、地域の人々の手によってよみがえった経緯もあります。



●期待される教育効果

湿原を守るための木道をガイドと共に歩き、湿原性の植物や珍しい蝶、トンボなどを観察します。道中ではツキノワグマの痕跡や、山間部に生息するトカゲや蛇などに出会えることもあります。生物多様性をフィールドで体感することによって、自然と共に生きる力の基礎づくりや、科学的・総合的に環境問題をとらえることができるようになることが期待されます。また、地域の方々の湿原再生の話聞き、豊かな価値観の形成がされます。

八幡湿原トレッキングの流れ(3時間)

9:00	開始式・ガイド紹介・準備体操
9:30	班別に出発(水口谷～霧ヶ谷～おーいの丘)
11:30	高原の自然館見学・班別で記録・まとめ
12:00	終了式

※体験時間によってコースの調整ができます。
※出発時間を班ごとにずらすため、高原の自然館の見学はトレッキングの前後いずれかになります。

●体験最大人数

200名(20名/1ガイド)

●時期

4月下旬から10月下旬

※冬期は近くの雪原でのスノートレッキングになります。

家業体験プログラム(一例)



	農業	生活	自然
通年	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜づくり・収穫 ●家畜の世話 ●摘花・間引作業 ●池・水路清掃 ●草刈り 	<ul style="list-style-type: none"> ●かまどでの炊飯 ●ジャム・豆腐づくり ●バラ寿司・しば餅作り ●薪割り・焚き付け ●地域行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●湿原散策 ●わら・竹細工 ●林業体験 ●天体観測 ●登山
春	<ul style="list-style-type: none"> ●田植え ●合鴨農法体験 ●麦踏み ●鳥獣対策 	<ul style="list-style-type: none"> ●タケノコ掘り ●山菜収穫・料理 ●花田植の練習 ●はぶ草茶づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホタル鑑賞 ●溪流釣り ●花めぐり ●樹木管理
秋	<ul style="list-style-type: none"> ●稲刈り ●リンゴ作業 ●野菜収穫 ●堆肥づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●みそ・蒟蒻づくり ●小豆叩き ●神楽の練習 ●焼き芋づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●紅葉狩り ●きのこ狩り ●昆虫採集 ●栗拾い
冬	<ul style="list-style-type: none"> ●雪おろし ●雪室管理 ●越冬野菜の防寒対策 ●野菜収穫 	<ul style="list-style-type: none"> ●雪かき ●漬物づくり ●枝打ち・森林管理 ●餅つき 	<ul style="list-style-type: none"> ●かまくら作り ●クロスカントリー ●かんじきづくり ●しめ縄づくり

本部宿舎の紹介

芸北オークガーデン 北広島町細見145-104 TEL0826-35-1230



夕食

立地

民宿・民泊が多い芸北地域の中心
にあり芸北地域内家庭は15分圏内
(北広島町内で最も遠い家庭は40分)



露天風呂

温泉

天然温泉・露天
風呂完備
中国山地の自然
を感じながらリフ
レッシュできます



部屋

定員

客室8室
定員数32名



施設見取図
(107号室は2部屋に分割可能)

本部宿舎としてのご予約は
当協議会にご用命ください

新学習指導要領改訂に対応して 「主体的・対話的で深い学び」のために

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅力

①水がきれいでおいしい

軟水県広島の中でもトップクラスの超軟水。
臥竜山「雪霊水」は硬度8！水が美味いとなんでも美味しい！

②神楽でつながる地域力

神楽団数(おそらく)日本一の北広島町では神楽が地域コミュニティの核を作る。
神楽は町民の誇りであり、共通の話題であり、若者が集う場になっている！

③山陰山陽の要衝で文化的

周辺には3つの世界遺産と2つの世界無形文化遺産！
原爆ドーム・厳島神社・石見銀山・石州半紙は北広島町と大きな関連が！

課題

①里山の管理が行き届かない

自宅の裏山の管理が行き届かず、生物多様性は失われ、人間と動物の生活境界があいまいに。獣害も深刻な状況に。

②伝統芸能の後継者不足

少子高齢化により、神楽団や田楽団の後継者不足が進んでいる。
300年受け継いできた演目も、田植え歌も継承することが難しくなっている。

③雪かき・草刈の人手不足

空き家の増加、地域集落の人口減少により、かつて集落で行っていた河川の草刈も困難。冬には独居老人の雪かき作業も間に合っていない。

伝統見つめなおしプログラム

教育目標

- 「広島神楽」の学習を通じて、地域の伝統芸能・祭りを見つめなおし、伝承してきた人の思いや地域社会での役割を学ぶ
- 自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

ねらい

- 米作りと密接な関係がある神楽を学ぶことで、継承されてきた伝統の意味に気付く
- 様々な立場から出る多様な意見を整理し、グループで共有し議論してまとめる力が付く
- 共通の話題「神楽」を通じて、民泊家庭や地域の方との交流がより深まる
- 旅行先で学んだことを生かし、自分たちの地域の伝統に引き寄せて考えることができる

事前学習

- ①神楽動画の鑑賞・感想を持つ(資料:神楽DVD提供)
- ②神楽とは何か?どんな意味があるのか?を調べる(資料:「中国地方神楽の魅力」NHK「KAGURA」提供)
- ③神楽伝承の取り組みや問題点について調べ、資料を読み解く(資料:「北広島町神楽振興計画」提供)
- ④北広島町の人たちにとって神楽にはどんな意味があるのか?グループごとに仮説を立てる

展開



講師ごとに分かれてインタビュー
※写真はイメージです



近所の神社での神楽鑑賞



現役神楽団員へのインタビュー

体験の流れ2泊3日(例)

1日目	13:45	対面式会場に到着
	14:00	様々な視点を持つ講師ごとに、スペースを区切り自己紹介・自分の思いを話し、生徒からインタビューを行う (例)①若手舞子②ベテラン団員③団員OB④神楽面師・衣装屋⑤商工観光課職員⑥教育委員会職員 ⑦神楽大会主催者⑧神楽ファン⑨中高神楽部員⑩神楽団のない地域の方⑪NPO など ※生徒はグループごとに誰の話聞くか計画を立て、役割分担を行っておく
	15:00	対面式・民泊家庭へ分かれる
2日目	民泊中	民泊家庭の方、近所の方に神楽について調べたいことを生活体験の中で質問する
	19:15	民泊家庭の車で近所の神社・集会所に集合
	19:30	開始式・神楽団団長の話
	19:45	神楽鑑賞(1演目30~40分)
	20:15	神楽衣装試着・バックステージツアー・記念撮影
	20:30	現役神楽団員へのインタビュー・神楽鑑賞証明書授与・終了式
	20:45	民泊家庭の車で帰宅

●体験人数

240名(神楽鑑賞は40名×6会場)

●時間・時期

通年体験可能(※12月~3月は開催できる地域に限られます ※神楽鑑賞は夜の体験になります。)

事後学習

- ⑤それぞれの知識をグループに持ち帰り、様々な視点を含んだうえで、「北広島町民にとっての神楽」の姿を捉え発表を行う
- ⑥上記の成果を踏まえて、広島神楽との違いを比較しながら生徒たちの地域の伝統芸能・祭りについて調査する